

シリーズ

# 解剖 岸田大軍拡

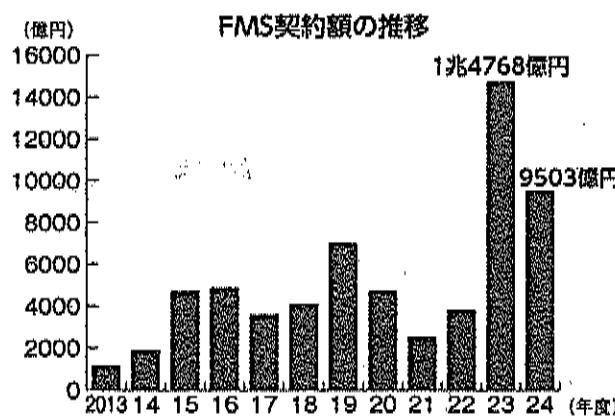
24年度 軍事費は…

## 米高額兵器とかとも借金

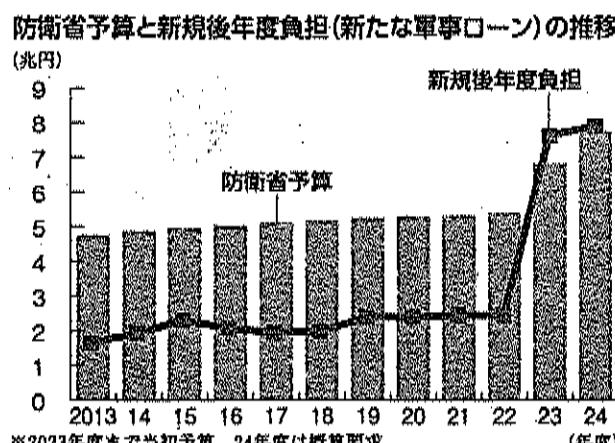
一面報道の「イージス・500億円」に上りました。システィム搭載艦で運用するレーダー「SPY-7」をはじめとする米国製高額兵器の大額購入によって、軍事ローンが積みあがっています。将来にわたり軍事費が財政を圧迫し、社会保障や教育などの予算が削られる恐れがあります。

軍事費青天井に  
頭著に増加していくのが、米政府の武器輸出制度「FMS」です。24年度予算の概算額では、FMSの契約額は9

# 財政圧迫は必至



※2024年度は概算要求



※2023年度まで当初予算。24年度は概算要求

未だ発足した安倍政権下で急増していました。トルン前米政権からの「バイ・アメリカン（アメリカ製品を買え）」という圧力のために、岸田政権はこの路線を受け継ぐだけでなく、安保改文案の閣議決定を受けて、さらに強化していくFMSを膨らませています。

これに伴って、新たなツケ払いとなる「新規後年度負担」も急増しています。たって支払いをするため、24年度予算の概算要求では過去最大を更新。概算要求を7兆8787億円以上に、FMSを7兆7兆円と上回る規模となりました。

新規後年度負担は、高額兵器の購入や自衛隊施設の整備の際に、複数年度にわたり支払いをするため、翌年度以降に計上される軍事ローンです。すでに軍事ローンが軍事費を押し上げている要因となっていま

す。24年度概算要求で、過去の契約のローン返済と充

てます。

岸田政権は、軍事ロ

ン貸付、とも言える国家財

政のゆがみを今後もひた

しまして。

## 軍事ローン濶け

軍事費増大の弊害が28年度以降にも及ぶことになり、社会保障や教育などの予算を圧迫することは必至です。将来に禍根を残す大軍拡はストップさせなければなりません。